

JIN-SHA YELL

人間社会学科、略して「ジンシャ」。ジンシャに関わるすべての人にエール（声援）を送ります！
年度最後のジンシャエールは、今年度の卒業生特集です。

下平ゼミ

振り返って
私なりの4年間を

4年 坂本 一樹

「ああ、今となってはいい思い出だった。」そのように改めて感じるとともに、大学4年間を過ごし、私は多くの人たちと出会い、様々な体験や学びを得ることができた。しかしながら、私は大学2年生まで地元茨城県小美玉市という場所から片道約三時間、往復六時間かけてほぼ毎日大学に通っていたため、大学で学んだ時間の次に、「電車で過ごした時間」が大半であった。大学3年の頃には新型コロナウイルスの影響で大学に行くことはなく、自宅からリモートの授業が中心となり、

4年生になってからもほとんど大学に行くことなく、卒業を待つのみとなった。だが、都内でも雰囲気の違いを電車の車窓から感じ、また、リモート授業になり、これまでの「常識」が変化して時代の転換点を過ごすなど、この4年間は非常に貴重で大切な時間を過ごすことができた改めて感じている。4月から私は、中学校の社会科教員として新しいフィールドに立つことになるが、ゼミの下平先生をはじめ多くの先生方から学んだ知識を150%発揮できるように努めていきたい。



4年 穴戸 舞帆

「二兎を追う者は一兎をも得ず」そんな言葉がありますが、私の大学生生活は何兎追ったか分からないくらい、欲張って様々な事に取り組みました。

学科の授業に加えて教職課程を履修しながら、へき地教育研究部に所属し、休日は地域のソフトボールチームで活動、合間を縫ってアルバイトに励みました。また卒業論文ではアンケート調査のみならず、インタビュー調査も行いました。

そんな欲張りに欲張った大学生活ですが、へ

き地教育研究部での活動は、私の人生においてかけがえないものとなり、ソフトボールでは都民大会3位入賞を果たし、3種類の教員免許を取得し、無事に卒業論文を書き上げ、大学を卒業します。

大学はチャンスや新しい出会いが多く広がっている場所です。自分の行動次第でたくさんの物を手に入れることができます。みなさんも家族や仲間、友人、先生方への感謝を忘れず、悔いのないように様々な事に挑戦してみてください。

元治ゼミ

欲張りに欲張った
大学生生活



都民大会第3位 表彰式



へき地教育研究部での活動(福井県の小・中学校にて)

竹峰ゼミ

自分の足で探しに行く
— 福島、水俣、広島を結んで —

福島出身である私は小学生のときに経験した福島原発事故のことを調べようと、1年生の3月からフィールドワークを重ねました。

福島原発事故は福島だけの問題と捉え、福島という場所にこだわって調べることから始めました。しかし、福島で現地の方からお話を聞く中で「水俣と福島は似ている」という話がありました。またゼミ合宿で広島に行った際、広島と福島にも共通点があるのではと思うようになりました。

水俣や広島は福島と離れており、一見すると関係のない地域に思えます。しかし広島や水俣

に行くと、現地の方にお話を聞くと福島原発事故との向き合い方のヒントを得ることができました。福島、水俣、広島に訪れ、現地の人と出会って、お話を聞き、地域を歩いたことで卒業論文「福島原発事故 問い直す「復興」—水俣と広島の経験に学ぶ—」が完成しました。

福島、水俣、広島には、それぞれの地域の経験に共通点があると気がつきました。社会問題が起きた地域の中だけを調べるのではなく、別の地域にも視野を広げ対象の社会問題を見つめる大切さを学べました。



福島県飯舘村 帰還困難区域入口



水俣を訪ねて

4年 所 太智

単位を取るために授業に出席し、アルバイトに勤しみ、たまにサークルに顔を出し、メリハリのない日常を送っていた学生生活。

そんな日常に転機が訪れたのは、熊本ゼミに所属したことです。きっかけは「ゼミに来なよ。」という言葉。たまたま熊本先生と会話をする機会があり、私の地元にも米軍基地がある話をしたことが縁でした。

それまでは近くに基地がある程度の認識でしたが、先生の下で学んでいくうちに、基地が様々な形で人々に影響を及ぼしていることに気づきました。そして周囲のことに興味を持ち、実際に行動に移そうと思いました。それからは、ボランティア活動に取り組んだり、島へ一人旅に出たり、卒

論のために地元を調べるなかで新しい発見をしたりと、有意義な時間を過ごせたと実感しています。また、同じ目標を持つ仲間に出会えたことで、皆で刺激し合える関係性を育み、プライベートも楽しい時間を共有できました。

これからも、日常生活に転がっている興味のきっかけを掴み、社会人として頑張りたいです。



フィールドワークの様子

熊本ゼミ

興味は何気ない
一言から始まる

本多ゼミ

幅広い学びを
得られる場所として

私の学生生活は前半と後半で大きく異なるものでした。前半2年間はサークルにバイトにと目まぐるしい日々を過ごしていました。サークルは趣味のカードゲームと少人数のボランティアサークルを掛け持ちしていて、毎週水曜と金曜の楽しみになっていました。

大学生活後半ではコロナウィルスの流行によりリモート授業など何もかも手探りの状態で始まりました。その中でずっと利用していた学内のカフェが閉店してしまったり、やる気を保てずに単位を落としそうに

なることもありました。

学業では人間社会学科の特徴のひとつでもある幅広い科目を利用して興味のあることに関する講義を手当たり次第に受けていました。今思えばそのおかげで自分のやりたいことに役に立つであろう知識を覚えることができました。今年の4月からは家電量販店で働くこととなりますが、自分なりに大学生活で学んだことを生かしながら社会人として胸を張れるように頑張っていきたいです。

4年 小澤 ブランドン正樹



星友祭準備の一コマ

鷺沢ゼミ

部活動の経験を通して
挑戦した大学4年間

4年 安野 紗弥

私は体育会男子送球部に所属し、マネージャーとして活動してきました。チームの勝利に貢献し、チームにとって必要不可欠な存在であるマネージャーになるためデータ分析やテーピングの習得など多くのことに挑戦してきました。本気でチームの目標に向かい努力してきたこの4年間は自分の中で大きな財産となり、大切な同期に出会うこともできました。また、所属する鷺沢ゼミで、部活動を通して関心を持った「性別の枠を超えたマネージャー」について調査し、自分の部活動の経験を活かし進めることができました。

部活動で多くのことに挑戦してきたことから、就職活動でも積極的に様々な企業に挑戦し、結

果として当初目標としていた企業よりも良い、自分の納得した企業に就職することができました。4月から社会人として社会に出ますが、部活動を通して培ったものを発揮し、自分らしく活躍していきたいです。



部活動の仲間と共に

4年 斎藤 聖弥

私は入学当初、高校では厳しい部活一色だった生活を一新し「全力で勉強して、全力で遊ぶ」という大学生活の目標を立てた。

学業面については、ゼミで若者の働き方や日本型雇用システムについて研究をしたり、教員免許取得のために教育実習などの経験をしたりした。社会学などを勉強していく中で、自分の視野やものの見方は大きく広がり、社会事象についての理解、関心が深められた。

だが、それだけではなく、趣味を楽しむことにも多くの時間を費やした。小さい頃から好きだったプロ野球の試合を見に行ったり、アーティストのライブに行ったりなど、好きなことをとことん楽しんだ。色々な土地に行き、色々な人に出会い、色々なものを食べるなどして、大学内では学べな

いことを得ることができた。

そんな4年間は私にとって一瞬であり、コロナ禍となった最後の2年間は自分が思い描いたような日々が送れなかった。だが、それも含めて、一つひとつの経験が自分にとって大きな財産となっていくだろう。大学生活で関わってくださった方々に感謝し、そして様々な経験を糧に、春から市役所職員として地元に貢献していきたい。



巨人・坂本選手の2000本安打達成試合にて

鷺沢ゼミ

4年間
一つひとつが学びになった

鷺沢ゼミ

実りある学生生活

4年 末野 佑樹

私は人間社会学科で学べて良かったと思います。

人間社会学科では、「人間」や「社会」と関係するすべてを研究対象にできるため、自分が抱いた多くの疑問を「問い」として立てることができます。また、その「問い」に対する「答え」を導き出す方法として、インタビューをするためのノウハウや統計的に分析する方法を学ぶことができます。これらの学びは、これからの生活でも役立つため、私の貴重な財産になりました。

その他にも、「特別併修制度(教育学部以外の学生でも小学校の教員免許状が取得できる明星大学独自のプログラムのこと)」を利用して、実りある学習を進めることができました。また部活動では、体操部に所属し、念願だった全日本イン

カレに出場を果たすことができました。

卒業後は、小学校の教員として教壇に立ちますが、これまでの学びや、学生時代に支えてくださった方々への感謝を原動力として、まずは目の前の子どもに対して全力で向き合っていきます。

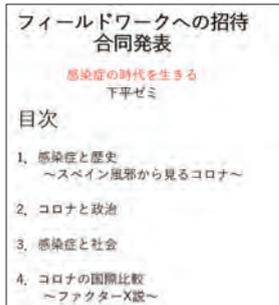


全日本インカレ出場!

1年生後期ゼミ

「フィールドワークへの招待」の 合同発表会

人間社会学科では1年生から4年生まで少人数ゼミがあることが特色の一つですが、1年生の後期のゼミではフィールドワークの基礎を学び、その集大成として最後に全てのゼミが集まり合同の発表会をしています。今年度は昨年度に引き続き、ZOOMによる発表会となりましたが、どのゼミの発表も力がこもった興味深いものとなりました。各ゼミの発表を代表する一枚のスライドと1年生の感想をご覧ください、授業の様子を感じ取っていただければ幸いです。（鶴沢）



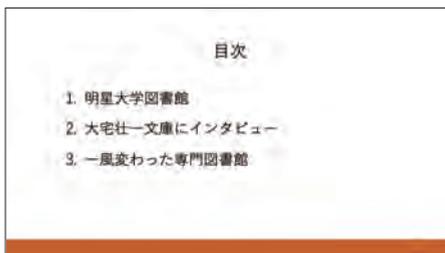
「感染症の時代を生きる」(下平ゼミ)



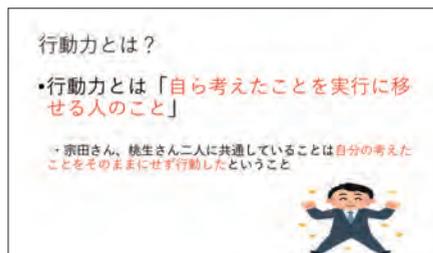
「ミャンマーを見る・聞く・考える」(鶴沢ゼミ)



「タイで働く・タイで生きる」(元治ゼミ)



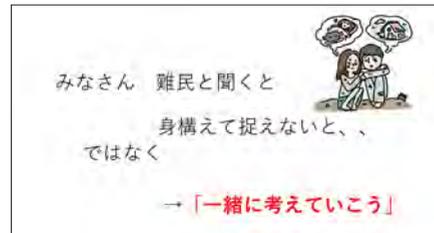
「図書館・資料館を知る」(本多ゼミ)



「世界とつながる地域とつながる」(寺田ゼミ)

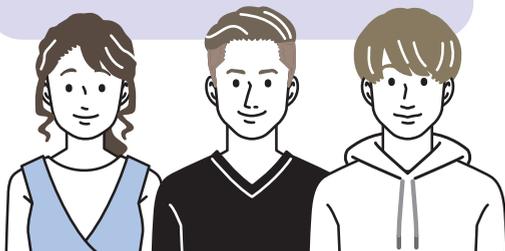


「韓国について」(天野ゼミ)



「難民・バナナとわたしたち」(竹峰ゼミ)

インタビューをする前の準備から、インタビュー当日、今日の発表まで、みんなしっかり準備されていてすごかった。ゼミによって内容も違ったので聞くのに飽きなかった。私がまだまだ知らないことだらけだということも実感したし、今の日本の問題など、できることからしていけないといけないなと思った。難民問題については特に、自分たちがなってもおかしくないことなのだと思った。やはりプレゼンとなると緊張した。(1年 佐久間柁・寺田ゼミ)



この授業全体を通して、インタビューをする機会がありゼミの人達と質問を考えたり調べたりして、最後に発表が上手くいったよかったと思います。他のゼミの人でインタビューをする人を知るためにその人の本を読んだと言っていた人がいて、来年以降、インタビューの機会があれば参考にしようと思いました。(1年 長谷本尚大・本多ゼミ)

どのゼミの発表も興味を惹かれる場面が多く、よく発表が作りこまれていて、もっと詳しく知りたいと思った。発表に使われたパワーポイントも画像が多く使われていて、要点がきれいにまとめられていて見やすかった。初めての作業も多く、一つのゼミで一つのものを作り上げていくというのは非常に難しかったが、今回の発表を終えて、大きな達成感を得ることができた。(1年 木村海斗・鶴沢ゼミ)

「ようこそ先輩」

学科の卒業生・4年生を迎えて毎年実施している「ようこそ先輩」、今年度はオンライン開催となりました。小グループに分かれての先輩たちとの交流は、例年に増して濃密なものとなりました。(寺田)

4年 安野 紗弥(綿沢ゼミ)

私のコメントは、3面に掲載されています!



栗村 周太郎(16年度卒 竹峰ゼミ)

私は明星大学の人間社会学科を卒業後、東京学芸大学の特別支援専攻科というところで特別支援学校の免許を取得し、現在は神奈川県内の特別支援学校の教員として、働いています。

今回「ようこそ先輩」で学生の皆さまとお話をさせていただきました。私の話に真剣になって聞いたり、興味を持って質問をして下さったりした学生の皆さま本当にありがとうございました。自分も学生に戻った気分になりとても良い経験になりました。

安藤 美紅(20年度卒 元治ゼミ)

2021年の3月に卒業し、現在は新米社会人として、老人ホームで介護士として働いています。私は昔から何か目標を立てるといったことが苦手で、自分が将来なにになりたいのか、どういった生き方がしたいのか、ずっと分かりませんでした。そんな私でもなんとかやって行けるので気を張り過ぎなくていいのだ(もちろん頑張ることも大切ですが)とお伝えしたくて今回お話しさせていただきました。学業や就活におけるテクニック等役立つことはあまりお話できませんでしたが、少しでも不安な気持ちが和らげば幸いです。

廣谷 龍貴(18年度卒 寺田ゼミ)

この度は貴重な時間をいただき誠にありがとうございました。

就職活動はとても不安なことだと思います。まずは、自分が働く上で譲れない軸の一つつけてみると業界や企業を見つけやすくなるかもしれません。それは、給料や休日、福利厚生、職場の雰囲気等多岐にわたります。その中で、何を重視していくかが一つポイントになるのではないかと思います。

数多くある企業の中から見つけ出すのは大変ですが、行き詰まった時は先生へ相談したり、キャリアセンターを利用して下さいね。みんなあなたの味方です。

そして、面接に進んだ際、特別な経験や特技みたいなことは必要ありません。大切なことは明るく元気に笑顔で会話を!それだけで面接官はあなたに釘付けです。

2021年度本多ゼミ(3年生)活動報告

2021年度の本多ゼミ(3年生)では、「コロナ禍の社会変化」をテーマに共同調査を実施しました。3つの班に分かれて、「働き方への影響」、「若者の恋愛・結婚観への影響」、「居酒屋への影響」をテーマに、それぞれ当事者の方々に、感染対策に十分に気がつけた上でインタビュー調査を行いました。

実際に現場の声をきくと、さまざまな状況をうかがい知ることができます。たとえば事務職はリモートワークが増えた反面、現業職は感染対策への対応に追われ、また休日にも自由に外出できないのでストレスをためやすいこと、大学での出会いが減ったかわりに地元の友だちと合うことが増えてカップルを作る機会になっていること、仕入先との関係で営業を続けざるをえない居酒屋の実情、などです。

それぞれ断片的ながらも、社会の一側面を浮き彫りにしたものです。現実の社会変化をみすえながら学びを深めていくことができるのは、社会学のゼミならではの魅力ではないでしょうか。(本多)



▲研究成果の発表会

学生の提案が東京都の事業になりました！

みなさん、「都民提案」の話、覚えていますか？前号では、東京都にやってもらいたい事業を都民が提案し、都民に選ばれた事業が実現するというこの企画に熊本ゼミが参加し、477の提案のなかから2年ゼミと3年ゼミの提案が1つつ投票対象事業に選ばれた、というところまでお伝えしておりました。

その後、予定通り都民のみなさまによる投票が行われた結果、なんと、3年ゼミの提案「チャットボットによる子育て支援情報の発信」が、得票数1,195票で6位に入り、福祉保健局の事業として実施されることになったのです！東京都が発行している「とうきょう子育て応援ブック」に書かれている情報がチャットボットで検索できるようになれば、必要な情報が簡単に探せるようになるのでは？そんな思いから始まった学生たちの提案が、本当に実現するのです。初めての応募で、まさかこんな結果が得られるとは、夢にも思っていませんでした。

ゼミ長の女子学生は、「多くの方に投票してもらえて、とても嬉しいです。私たちの提案が実現し、子育てしやすい東京になってほしいなと思います」と語ってくれました。

学生たちにとって「子育て」は、近い将来、自分が当事者になることもあるでしょう。子育てに限ったことではありませんが、いろんな情報が流れているいま、正確な情報を素早く入手できるようになることは、とても重要なことです。だからこそ、学生たちの提案が、多くの都民に支持されたのだと思います。

いま社会で何が課題になっているのかを調べ、解決するための方法を考え、効果と問題点を検討した上で、根拠に基づいた提案をする。この一連の過程を通して学べることはたくさんあります。ここで学んだことは、大学での研究のみならず、社会に出ても役立つことばかりです。

ですので、熊本ゼミではこれからも、都民提案への応募を続けていきます。目指せ、連続採択！（熊本）

採用された事業の概要

No.1

チャットボット導入による 子育て支援情報の発信

出産・子育て
への支援

東京の子育てに関する情報をまとめた「とうきょう子育て応援ブック」の内容を活用し、子育て相談のチャットボットを導入して、サービスの向上を図る。

とうきょう子育て応援ブック

- ✓ 都や区市町村が実施している様々な子育て支援サービスを掲載した冊子
- ✓ 子供の年齢や困りごとの内容に合わせて情報を掲載



チャットボット

子育ての相談をしたい

こちらの情報はどうぞ

- ・子供の健康や成長のこと
⇒保健所・保健センター
- ・子育ての不安や悩み
⇒子供家庭支援センター

ありがとう！



期待される
効果

- ・ ユーザーの入力したキーワードから関連性の高い情報が提示されることで、入手したい情報へのアクセス性が向上
- ・ キーワードなどの分析を通じ、利用者のニーズを都が把握することで、子育て施策立案の参考情報として活用可能



JIN-SHA YELL

ジンシャエール
2022.Feb.
Vol.
29

人間社会学科、略して「ジンシャ」。ジンシャに関わるすべての人にエール（声援）を送ります！
年度最後のジンシャエールは、今年度の卒業生特集です。

「ようこそ先輩」

学科の卒業生・4年生を迎えて毎年実施している「ようこそ先輩」、今年度はオンライン開催となりました。小グループに分かれての先輩たちとの交流は、例年に増して濃密なものとなりました。（寺田）

4年 安野 紗弥（鶏沢ゼミ）

私のコメントは、3面に掲載されています！



栗村 周太郎（16年度卒 竹峰ゼミ）

私は明星大学の人間社会学科を卒業後、東京学芸大学の特別支援専攻科というところで特別支援学校の免許を取得し、現在は神奈川県内の特別支援学校の教員として、働いています。
今回「ようこそ先輩」で学生の皆さまとお話をさせていただきました。私の話に真剣になって聞いたり、興味を持って質問を下さったりした学生の皆さま本当にありがとうございました。自分も学生に戻った気分になりとても良い経験になりました。

安藤 美紅（20年度卒 元治ゼミ）

2021年の3月に卒業し、現在は新米社会人として、老人ホームで介護士として働いています。私は昔から何か目標を立てるといったことが苦手で、自分が将来なになりたいのか、どういった生き方したいのか、ずっと分かりませんでした。そんな私でもなんとかやって行けるので気を張り過ぎなくていいの（もちろん頑張ることも大切ですが）とお伝えしたくて今回お話しさせて頂きました。学業や就活におけるテクニック等役立つことはあまりお話しできませんでしたが、少しでも不安な気持ちが和らげば幸いです。

廣谷 龍貴（18年度卒 寺田ゼミ）

この度は貴重な時間をいただき誠にありがとうございました。
就職活動はとても不安なことだと思います。まずは、自分が働く上で譲れない軸の一つ見つけてみると業界や企業を見つけやすくなるかもしれません。それは、給料や休日、福利厚生、職場の雰囲気等多岐にわたります。その中で、何を重視していくか一つポイントになるのではないかと思います。
数多くある企業の中から見つけ出すのは大変ですが、行き詰まった時は先生へ相談したり、キャリアセンターを利用してみて下さいね。みんなあなたの味方です。
そして、面接に進んだ際、特別な経験や特技みたいなことは必要ありません。大切なことは明るく元気に笑顔で会話を！それだけで面接官はあなたに釘付けです。

2021年度本多ゼミ（3年生）活動報告

2021年度の本多ゼミ（3年生）では、「コロナ禍の社会変化」をテーマに共同調査を実施しました。3つの班に分かれて、「働き方への影響」、「若者の恋愛・結婚観への影響」、「居酒屋への影響」をテーマに、それぞれ当事者の方々に、感染対策に十分に気をつけた上でインタビュー調査を行いました。
実際に現場の声をきくと、さまざまな状況をうかがい知ることができます。たとえば事務職はリモートワークが増えた反面、現業職は感染対策への対応に追われ、また休日にも自由に外出できないのでストレスをためやすいこと、大学での出会いが減ったかわりに地元の友だちと合うことが増えてカップルを作る機会になっていること、仕入先との関係で営業を続けざるをえない居酒屋の実情、などです。
それぞれ断片的ながらも、社会の側面を浮き彫りにしたものです。現実の社会変化をみえながら学びを深めていくことができるのは、社会学のゼミならではの魅力ではないでしょうか。（本多）



▲研究成果の発表会

学生の提案が東京都の事業になりました！

みなさん、「都民提案」の話、覚えていますか？前号では、東京都にやってもらいたい事業を都民が提案し、都民に選ばれた事業が実現するというこの企画に熊本ゼミが参加し、477の提案のなかから2年ゼミと3年ゼミの提案が1つずつ投票対象事業に選ばれた、というところまでお伝えしておりました。
その後、予定通り都民のみなさまによる投票が行われた結果、なんと、3年ゼミの提案「チャットボットによる子育て支援情報の発信」が、得票数1,195票で6位に入り、福祉保健局の事業として実施されることになったのです！東京都が発行している「とうきょう子育て応援ブック」に書かれている情報がチャットボットで検索できるようになれば、必要な情報が簡単に探せるようになるのでは？そんな思いから始まった学生たちの提案が、本当に実現するのです。初めての応募で、まさかこんな結果が得られるとは、夢にも思っていませんでした。
ゼミ長の女子学生は、「多くの方に投票してもらえて、とても嬉しです。私たちの提案が実現し、子育てしやすい東京になってほしいと思います」と語ってくれました。
学生たちにとって「子育て」は、近い将来、自分が当事者になることもあるでしょう。子育てに限ったことではありませんが、いろんな情報が流れているいま、正確な情報を素早く入手できるようになることは、とても重要なことです。だからこそ、学生たちの提案が、多くの都民に支持されたのだと思います。
いま社会で何が課題になっているのかを調べ、解決するための方法を考え、効果と問題点を検討した上で、根拠に基づいた提案をする。この一連の過程を通して学べることはたくさんあります。ここで学んだことは、大学での研究のみならず、社会に出ても役立つことばかりです。
です。熊本ゼミではこれからも、都民提案への応募を続けていきます。目指せ、連続採択！（熊本）

採用された事業の概要

No.1

チャットボット導入による 子育て支援情報の発信

出産・子育て
への支援

東京の子育てに関する情報をまとめた「とうきょう子育て応援ブック」の内容を活用し、子育て相談のチャットボットを導入して、サービスの向上を図る。

とうきょう子育て応援ブック

- ✓ 都や区市町村が実施している様々な子育て支援サービスを掲載した冊子
- ✓ 子供の年齢や困りごとの内容に合わせて情報を掲載

チャットボット

子育ての相談をしたい

こちらの情報はどうでしょう

- ・子供の健康や成長のこと ⇒保健所・保健センター
- ・子育ての不安や悩み ⇒子供家庭支援センター

ありがとう！

期待される効果

- ・ユーザーの入力したキーワードから関連性の高い情報が提示されることで、入手したい情報へのアクセシビリティが向上
- ・キーワードなどの分析を通じ、利用者のニーズを都が把握することで、子育て施策立案の参考情報として活用可能

下平ゼミ

振り返って
私なりの4年間を

4年 坂本 一樹

「ああ、今となってはいい思い出だった。」そのように改めて感じるとともに、大学4年間を過ごし、私は多くの人たちと出会い、様々な体験や学びを得ることができた。しかしながら、私は大学2年生まで地元茨城県小美玉市という場所から片道約三時間、往復六時間かけてほぼ毎日大学に通っていたため、大学で学んだ時間の次に、「電車で過ごした時間」が大半であった。大学3年の頃には新型コロナウイルスの影響で大学に行くことはなく、自宅からリモートの授業が中心となり、

4年生になってからもほとんど大学に行くことなく、卒業を待つのみとなった。だが、都内でも雰囲気の違いを電車の車窓から感じ、また、リモート授業になり、これまでの「常識」が変化して時代の転換点を過ごすなど、この4年間は非常に貴重で大切な時間を過ごすことができたこと改めて感じている。4月から私は、中学校の社会科教員として新しいフィールドに立つことになるが、ゼミの下平先生をはじめ多くの先生方から学んだ知識を150%発揮できるように努めていきたい。



4年 戸井 舞帆

「二兎を追う者は一兎をも得ず」そんな言葉がありますが、私の大学生活は何も追ったか分からなくらい、欲張って様々な事に組み込まれました。
学科の授業に加えて教職課程を履修しながら、へき地教育研究部に所属し、休日は地域のソフトボールチームで活動、合間を縫ってアルバイトに励みました。また卒業論文ではアンケート調査のみならず、インタビュー調査も行いました。そんな欲張りに欲張った大学生活ですが、へ

き地教育研究部での活動は、私の人生においてかけがえのないものとなり、ソフトボールでは都民大会3位入賞を果たし、3種類の教員免許を取得し、無事に卒業論文を書き上げ、大学を卒業します。
大学はチャンスや新しい出会いが多く広がっている場所です。自分の行動次第でたくさんの物事に入れることが出来ます。みなさんも家族や仲間、友人、先生方への感謝を忘れず、悔いのないように様々な事に挑戦してみてください。



都民大会第3位 表彰式



へき地教育研究部での活動（福井県の小・中学校にて）

元治ゼミ

欲張りに欲張った
大学生活



竹峰ゼミ

自分の足で探しに行く
―福島、水俣、広島を結んで―

福島出身である私は小学生のときに経験した福島原発事故のことを調べようと、1年生の3月からフィールドワークを重ねました。

福島原発事故は福島だけの問題と捉え、福島という場所にこだわって調べることから始めました。しかし、福島で現地の方からお話を聞く中で「水俣と福島は似ている」という話がありました。またゼミ合宿で広島に行った際、広島と福島にも共通点があるのではと思うようになりました。

水俣や広島は福島と離れており、一見すると関係のない地域に思えます。しかし広島や水俣

に行くと、現地の方にお話を聞くと福島原発事故との向き合い方のヒントを得ることができました。福島、水俣、広島を訪れ、現地の人と出会って、お話を聞き、地域を歩いたことで卒業論文「福島原発事故 問い直す「復興」―水俣と広島の経験に学ぶ―」が完成しました。

福島、水俣、広島には、それぞれの地域の経験に共通点があると気がつきました。社会問題が起きた地域の中だけを調べるのではなく、別の地域にも視野を広げ対象の社会問題を見つめる大切さを学べました。



福島県飯館村 帰還困難区域入口



水俣を訪ねて

4年 所太智

単位を取るために授業に出席し、アルバイトに動かし、たまにサークルに顔を出し、メリハリの無い日常を送っていた学生生活。

そんな日常に転機が訪れたのは、熊本ゼミに所属したことです。きっかけは「ゼミに来なよ。」という一言。またま熊本先生と会話をする機会があり、私の地元にも米軍基地がある話をしたことが縁でした。

それまでは近くに基地がある程度の認識でしたが、先生の下で学んでいくうちに、基地が様々な形で人々に影響を及ぼしていることに気づきました。そして周囲のことに興味を持ち、実際に行動に移そうと思いました。それからは、ボランティア活動に取り組んだり、島へ一人旅に出たり、卒

論のために地元を調べるなかで新しい発見をしたりと、有意義な時間を過ごせたと実感しています。また、同じ目標を持つ仲間に出会えたことで、皆で刺激し合える関係性を育み、プライベートも楽しい時間を共有できました。

これからも、日常生活に転がっている興味のきっかけを掴み、社会人として頑張りたいです。



フィールドワークの様子

4年 久米 啓天

熊本ゼミ

興味は何気ない
一言から始まる

4年 小澤 ブランドン正樹



星友祭準備の一コマ

私の学生生活は前半と後半で大きく異なるものでした。前半2年間はサークルにバイトにと目まぐるしい日々を過ごしていました。サークルは趣味のカードゲームと少人数のボランティアサークルを掛け持ちしていて、毎週水曜と金曜の楽しみになっていました。

大学生活後半ではコロナウィルスの流行によりリモート授業など何もかも手探りの状態が始まりました。その中でずっと利用していた学内のカフェが閉店してしまったり、やる気を保てずに単位を落としそうに

なることもありました。学業では人間社会学科の特徴のひとつでもある幅広い科目を利用して興味のあることに関する講義を手当たり次第に受けていました。今思えばそのおかげで自分のやりたいことに役に立つであろう知識を覚えることができました。今年の4月からは家電量販店で働くことになりましたが、自分なりに大学生活で学んだことを生かしながら社会人として胸を張れるように頑張りたいです。

鷗沢ゼミ

部活動の経験を通して
挑戦した大学4年間

4年 安野 紗弥

私は体育会男子サッカー部に所属し、マネージャーとして活動してきました。チームの勝利に貢献し、チームにとって必要不可欠な存在であるマネージャーになるためデータ分析やトレーニングの習得など多くのことに挑戦してきました。本気でチームの目標に向かい努力してきたこの4年間は自分の中で大きな財産となり、大切な同期に出会うこともできました。また、所属する鷗沢ゼミで、部活動を通して関心を持った「性別の枠を超えたマネージャー」について調査し、自分の部活動の経験を活かす進めることができました。

部活動で多くのことに挑戦してきたことから、就職活動でも積極的に様々な企業に挑戦し、結

果として当初目標としていた企業よりも良い、自分の納得した企業に就職することができました。4月から社会人として社会に出ますが、部活動を通して培ったものを発揮し、自分らしく活躍していきたいです。



部活動の仲間と共に

4年 斎藤 聖弥

私は入学当初、高校では厳しい部活一色だった生活を一新し「全力で勉強して、全力で遊ぶ」という大学生活の目標を立てた。

学業面については、ゼミで若者の働き方や日本型雇用システムについて研究をしたり、教員免許取得のために教育実習などの経験をしたりした。社会学などを勉強していく中で、自分の視野やものの見方は大きく広がり、社会事象についての理解、関心が深められた。

だが、それだけではなく、趣味を楽しむことにも多くの時間を費やした。小さい頃から好きだったプロ野球の試合を見に行ったり、アーティストのライブに行ったりなど、好きなことをとことん楽しんだ。色々な土地に行き、色々な人に出会い、色々なものを食べるなどして、大学内では学べな

いことを得ることができた。そんな4年間は私にとって一瞬であり、コロナ禍となった最後の2年間は自分が思い描いたような日々が送れなかった。だが、それも含めて、一つひとつの経験が自分にとって大きな財産となっていくだろう。大学生活で関わってくれた方々に感謝し、そして様々な経験を糧に、春から市役所職員として地元で貢献していきたい。



巨人・坂本選手の2000本安打達成試合にて

鷗沢ゼミ

一つひとつが学びになった
4年間

4年 末野 佑樹

私は人間社会学科で学べて良かったと思います。

人間社会学科では、「人間」や「社会」と関係するすべてを研究対象にできるため、自分が抱いた多くの疑問を「問い」として立てることができます。また、その「問い」に対する「答え」を導き出す方法として、インタビューをするためのノウハウや統計的に分析する方法を学ぶことができます。これらの学びは、これからの生活でも役立つため、私の貴重な財産になりました。

その他にも、「特別併修制度(教育学部以外の学生でも小学校の教員免許状が取得できる明星大学独自のプログラムのこと)」を利用して、実りある学習を進めることができました。また部活動では、体操部に所属し、念願だった全日本イン

カレに出場を果たすことができました。卒業後は、小学校の教員として教壇に立ちますが、これまでの学びや、学生時代に支えてくださった方々への感謝を原動力として、まずは目の前の子どもに対して全力で向き合っていきます。



全日本インカレ出場!

本多ゼミ

幅広い学びを
得られる場所として

私の学生生活は前半と後半で大きく異なるものでした。前半2年間はサークルにバイトにと目まぐるしい日々を過ごしていました。サークルは趣味のカードゲームと少人数のボランティアサークルを掛け持ちしていて、毎週水曜と金曜の楽しみになっていました。

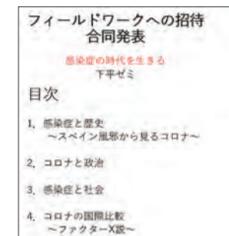
大学生活後半ではコロナウィルスの流行によりリモート授業など何もかも手探りの状態が始まりました。その中でずっと利用していた学内のカフェが閉店してしまったり、やる気を保てずに単位を落としそうに

鷗沢ゼミ

実りある学生生活

1年生後期ゼミ
「フィールドワークへの招待」の
合同発表会

人間社会学科では1年生から4年生まで少人数ゼミがあることが特色の一つですが、1年生の後期のゼミではフィールドワークの基礎を学び、その集大成として最後に全てのゼミが集まり合同の発表会をしています。今年度は昨年度に引き続き、ZOOMによる発表会となりましたが、どのゼミの発表も力がこもった興味深いものとなりました。各ゼミの発表を代表する一枚のスライドと1年生の感想をご覧ください、授業の様子を感じ取っていただければ幸いです。(鷗沢)



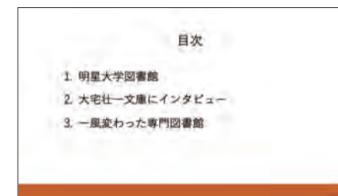
「感染症の時代を生きる」(下平ゼミ)



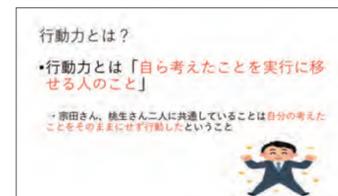
「ミャンマーを見る・聞く・考える」(鷗沢ゼミ)



「タイで働く・タイで生きる」(元治ゼミ)



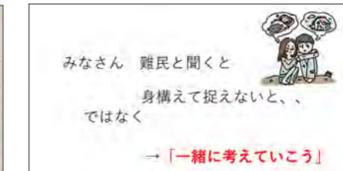
「図書館・資料館を知る」(本多ゼミ)



「世界とつながる地域とつながる」(寺田ゼミ)



「韓国について」(天野ゼミ)



「難民・バナナとわたしたち」(竹峰ゼミ)

インタビューをする前の準備から、インタビュー当日、今日の発表まで、みんなしっかり準備されていてすごかった。ゼミによって内容も違ったので聞くのに飽きなかった。私がまだまだ知らないことだらけだということも実感したし、今の日本の問題など、できることからしていけないといけないと思った。難民問題については特に、自分たちがなっておかしくないことなのだと思った。やはりプレゼンとなると緊張した。(1年 佐久間 柊・寺田ゼミ)



この授業全体を通して、インタビューをする機会がありゼミの人達と質問を考えたり調べたりして、最後に発表が上手くなってよかったと思います。他のゼミの人でインタビューをする人を知るためにその人の本を読んでと言っていた人がいて、来年以降、インタビューの機会があれば参考にしようと思いました。(1年 長谷本尚大・本多ゼミ)

どのゼミの発表も興味を惹かれる場面が多く、よく発表が作りこまれていて、もっと詳しく知りたいと思った。発表に使われたパワーポイントも画像が多く使われていて、要点がきれいにまとめられていて見やすかった。初めての作業も多く、一つのゼミで一つのものを作り上げていくというのは非常に難しかったが、今回の発表を終えて、大きな達成感を得ることができた。(1年 木村海斗・鷗沢ゼミ)